

世の中を作っていくとされるのか、知事としての平和に対する考えを、詳しく教えていただきたく質問します。また、この宣言についての知事のお考えをお聞かせください。

木村知事答弁

被団協のノーベル賞受賞は核兵器廃絶への思いを教訓として引き継いでいくことの大切さを痛感した。高校生平和大使の帰国報告を受け、意見交換した。我が国の安全保障環境の厳しさは増している。しかし、核兵器や戦争のない世界を作りたいという思いは「熊本県宣言」と同じ。

8 熊本とオランダとの交流促進について

世界遺産三角西港の設計者ムルドル氏はオランダ人、北里柴三郎が師事したアンスフェルト氏もオランダ人、マンスフェルト氏に師事した医学者は大勢います。人や出来事を生かして熊本とオランダとのつながり、交流を深められないかと思っていますが、何かお考えはありますでしょうか。

木村知事答弁

くまもと県南フードバレー構想はオランダのフードバレーを参考している。熊本の大豆由来の植物肉の開発企業もオランダに拠点を開設した。くまもと日蘭協会などの民間交流を応援していく。

採択された議案、意見書や条例

2月補正予算については全会一致で可決されました。当初予算には反対しました。理由は、川辺川ダム設計費、付け替え道路の工事費用など県負担14億円が入っていることに対してです。住民の共同検証の申し入れも何もかも無視して進められているからです。しかし、賛成多数で可決されました。

■熊本県いぐさ・畳の振興に関する条例

全会一致で賛成しました。

■旧姓の通称使用の法制度の創設を求める意見書

賛成多数で可決。*

※私たちの会派はこの意見書に反対討論をしました。この意見書は2021年にも出しているし、選択的夫婦別姓を進めるべきだからです。国でも今、協議しているものです。困り事があるからこそ、選択的夫婦別姓になれば、幸せになる方々が増えるのです。とても残念です。

SNSやってます
フォローしてくださいね!



岩田とも子の政治活動



女性議員の会で、潮谷義子元知事の講演会を企画しました。財政をしっかり見ることが大切!



はあもにウィメンズカレッジで講師をつとめました。政治はくらしそのものだということを知ってほしいと思っています。

連合熊本から県への政策提言と要求をされましたので、私たち議員も参加し、意見をのべました。



今年の熊本市出初式にも参加しました。



NO.
40

東日本大震災では津波に襲われた岩手県大船渡、今度は山火事の被害で、どんなにか不安な日々を過ごされたかと思うと胸が痛みます。

2月19日から3月19日まで、2月定例議会が開かれました。木村知事が知事に就任されて、約1年が経ちます。2024年度の2月補正予算と2025年度の当初予算等について討論が行われました。

私、岩田とも子は立憲民主連合会派の代表質問者として登壇しました。今回のレポートでご報告します。

【熊本県議会のホームページ】

県議会インターネット中継・録画はこちらよりご覧ください



2月定例会報

2月補正予算 693億円
2025年度当初予算 8448億円
(前年度比▲114億円)

子どもたちが笑顔で育つ熊本	40億
世界に開かれた活力あふれる熊本	94億
いつまでも続く豊かな熊本	14億
県民の命健康安全安心を守る	171億

岩田とも子代表質問

1 水俣病問題の解決について

知事の「くまもと新時代共創基本方針」に挙げられている、水俣病問題への対応と照らし合わせて4点の質問。

- ① 国の進める健康調査の準備・検討に対する県の見解。
- ② 知事は、今後も時間を確保した上で、水俣病関係団体との意見交換の予定はあるのか。

③ 昨年12月に策定された水俣市文化財保存活用地域計画の中には、「自然と共に生き、再生するまち」としての歴史文化の特性を持つ水俣市がある。発展への光と影、再生への取り組みとして、水俣病関係の遺構群を水俣市活性化に活かす取り組みへの援助への考えや、百間排水口樋門の老朽化した扉の新設がそろそろ完成だが、この具現化に関してのお考え。

④ 水俣病の教訓を国内外、次世代にしっかりと発信、継承していくとのことだが、知事の考える「水俣病の教訓」は何なのか。

木村知事答弁

- ① 県は国に対して必要な協力を行なっていく。
- ② これまで5日間の懇談を実施、慰霊式後の懇談会は国・県の共催とし、しっかりと意見交換をする。
- ③ 百間排水口は環境に配慮した材料で施工を進めている。扉設置後は当時の様子を再現する。
- ④ 水俣病の教訓は、生命の源である自然環境が一旦破壊されるとその復元には多大の時間と費用を要するという。さまざまな行政課題は迅速な初期対応が肝心。それと、現場主義。

水俣病問題はもう解決したと言われる人たちの声は大きいかもしれませんが、県や国や大企業という大きな力のある組織に対峙する、その方々の声は力もなく、小さな声です。しっかりと受け止めていただきたい。ユーチューブ番組GO!くまモン★ナビ`では「水俣病に教訓～世代を超えて学び続ける」というテーマでの動画が見られます。これはみなさんに見ていただきたい!

2 インクルーシブ教育の推進について

知事はインクルーシブ教育についてどう考えられておられるのか、また、特別支援学級や特別支援学校の在籍児童生徒数が急増している現状を踏まえ、特別支援学級や学校ではない地域の公立学校に行って地域の仲間たちと共に学び合いたいという子どもたちが、笑顔で学校に通えるようにするためにどのような配慮をすべきとお考えなのか。

木村知事答弁

私の妹は重複障がいの小児科の医師。私の影響もあるかと思う。共に生きることですさまざまな学びがあると思う。聾学校の卒業式に行き、手話を取得してコミュニケーションをとることができて、社会人となる教育、このような学びの場があってよかったと思う。私は熊本流の特別支援教育の充実を図ってインクルーシブ教育を推進していく。合理的配慮のあり方についてはさらに議論を続ける。

「障害」は個人が克服するものではなく、周りの社会が変わるべきもの。そして、「障害」も個人の一部としてあるがままの存在をお互いに受け入れることだということを共有してほしい。(文科省が言うインクルーシブ教育システムは当事者の望むインクルーシブ教育ではないし、国連からも分離教育は勧告されているのです!)

3 長期欠席やその他の理由で学校での健康診断を受けられない児童生徒への支援について

健康診断の果たす役割についてどのように認識しておられるのかを踏まえ、熊本県としての適切な対応の現状をお聞きします。また、この問題は多くの自治体

で共通しているので、より広域的な解決策として県全体で健診のための予算の確保や県医師会との連携などが必要ではないかと考えますが、この点に関してもお聞きします。

教育長答弁

長期欠席の児童生徒の健康診断の受診状況や課題を把握し、市町村教育委員会や県医師会、歯科医師会等と共に連携を図りながら安心して健康診断を受けることができるよう取り組む。

早期発見が早期治療につながるし、虐待などの発見にもつながる健康診断は大切です。

4 児童養護施設の子どもの安心安全を守るための県の取組について

熊本県で児童養護施設などに措置される子どもたちの安心安全を守るため、また、健やかな成長を保障するために、熊本県は施設内での虐待が疑われる事案が発生した場合、子どもたちから声を聞いておられるのでしょうか。また、社会福祉審議会などへの報告は行われているのでしょうか。報告をされているのであれば、審議会などからの意見を踏まえ、県として再発防止等にどのように取り組まれているのでしょうか。

施設での虐待が繰り返されないように、徹底して子どもの側に立つべきだと考えますが、この件に関する県の姿勢についてお尋ねします。

健康福祉部長答弁

県が所管する施設においても入所児童に対する虐待が疑われる事案が発生している。このような場合、虐待対応ガイドラインに沿って対応する。事実が確認されたら、関係者の処分、職員研修、組織体制の見直しなど再発防止に取り組む。未然防止策として、外部支援員の派遣、子どもアドボカシー事業を実施している。

「魂の殺人」とも言われる性虐待は何年も経って不安に苛まれることもある。親も頼れない、関わった大人を信頼できず勇気を振り絞って警察にも訴えています。安心安全な施設の中であった出来事を整理し、子どもたちの苦しみを解放してほしい。(この質問は村上熊本市議も前日に質問をされ、大西市長は子どもの権利擁護に全力で取り組むと答弁されました。)

5 「熊本の宝」である水、熊本ブランドの水を守る県の取組について

「熊本の水についての見えない不安」から、様々な声が届いています。

具体的には、PFOS、PFOAが暫定指針値を超えて検出された場合の住民への説明や対策、半導体工場の排水基準や県の浄化センターの水質基準にPFASは対象外、継続的なモニタリング調査の必要性、PFASなどの化学物質に対する対応、建設予定も含めた水源近くにある廃棄物最終処分場のPFASの確認の必要性、誘致企業に対して県は対等な関係での情報交換はできているのか、などなどです。

そこで、このようなPFASなど化学物質や地下水の量に対する県民の皆様の様々な「熊本の水についての見えない不安」の解消に向け、どのように対応されていくのか、また、そのことを県民の皆様にとどのように伝えていくのか、知事にお尋ねします。

そして、最後に一点、環境生活部長にお尋ねします。「熊本地域地下水総合保全管理計画の次期計画」の策定を1年延期された理由と、目標値算定の基礎となる水収支算定などの進捗状況や今後のスケジュール、地下水量の現況、また、行政、企業、団体、住民等の協議をどのように進めていくかについてお尋ねします。

木村知事答弁

地下水量と質の「見える化」に向け、水量については地下水位をリアルタイムで確認できる体制を整備、水質は規制物質を対象に監視し、結果発表に努めている。規制外物質についてもセミコンパーク周辺で環境モニタリングを実施。結果は専門家委員会の意見を添えて公表予定。廃棄物最終処分場の調査で、PFOS PFOAが6箇所で指針値超過があり、地下水の飲用を控えるよう注意喚起をした。原因究明中。

誘致企業との情報交換は率直に重ねている。熊本の豊かな自然環境。生活環境を守り、経済発展と環境保全が両立する社会を実現することで将来に引き継ぐ。

環境生活部長答弁

熊本地域地下水総合保全管理計画は行政・企業・住民等が一体となって取り組む共通の目標を設定し、地域全体で地下水を管理していくための指針として策定。地下水の将来予測をできる限り正確に捉えるため、1年延期した。市町村を通して、住民の意見に耳を傾ける。

水俣病問題が根っこにある。国策誘致、経済発展、原因が分かっても見てみぬふりした国、小さな声を潰してきた歴史がある。対等な企業との関係性で、化学物質の公開を求めている。排水処理にフッ素化合物の処理が必要。最大限の汚染防止を求める。是非、住民とのタウンミーティングを!

6 公益通報制度における通報者の保護について

知事は、公益通報制度における通報者の保護について、どのようにお考えなのか伺います。

次に、熊本県における職員の通報の実態と、相談体制、通報を受けた場合の処理体制をどのように整備しているのかについて、総務部長に伺います。

また、県には外部の相談窓口として外部調査員が求められるようですが、その選任について、どのように第三者性を担保しているのか、併せて総務部長に伺います。

木村知事答弁

通報者の保護が最も重要。知事になって、職員が働きやすい場所を作り、職員の悩みには直接向き合う。風通しの良い職場を作っていく。

総務部長答弁

平成18年に内部通報要綱を策定してから29件の通報を受けている。外部相談員を2名から3名に増員する。外部相談員は行政に関する見識を有し、人格に優れ公平な立場で職務を遂行できる方を選任。

第三者委員会の人選は弁護士会のガイドラインに則るべき。告発した側がひどい目にあう世の中は変えていかねばなりません。

7 核兵器廃絶・世界の恒久平和を希求する熊本県宣言について

おでかけ知事室での平和に関する質問と知事のお答えについてお尋ねします。

核兵器禁止条約についての質問では、「国の政策でもあるので答えられない。軍事や武力がないと平和は維持できないという立場に立っている。核兵器のない地球、戦争のない世の中を作っていきたい」とお答えになりました。

うん? どういうことだろうと、どういふうにそんな